

経済・金融  
フラッシュブラジル GDP(2024年4-6月期)  
—前期比成長率がさらに加速

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

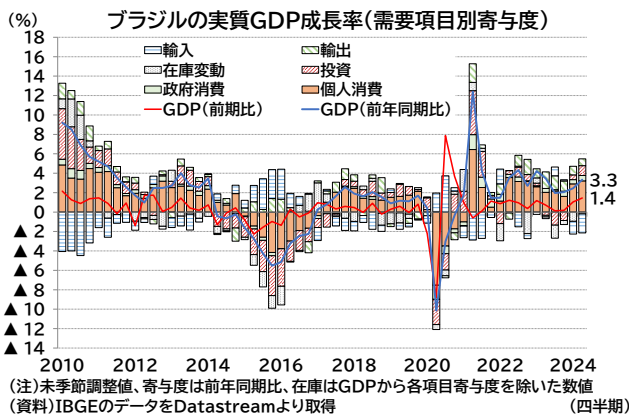
## 1. 結果の概要: 前期比 1.4%と高い成長を記録

9月3日、ブラジル地理統計院（IBGE）は国内総生産（GDP）を公表し、結果は以下の通りとなった。

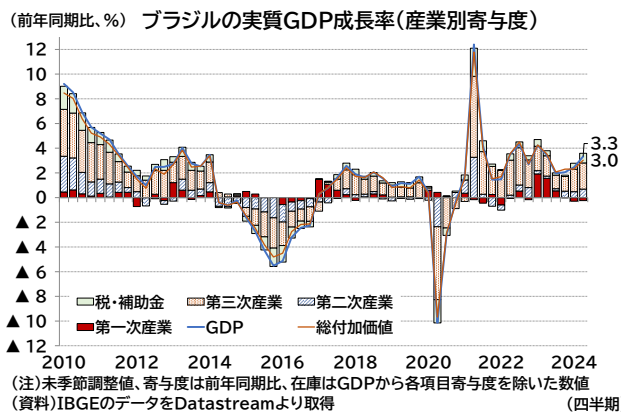
## 【実質GDP成長率（2024年4-6月期）】

- ・前年同期比伸び率（未季節調整値）は3.3%、市場予想<sup>1</sup>（2.7%）を上回り、前期（2.5%）から上昇した（図表1・2）。
- ・前期比伸び率（季節調整値）は1.4%、予想（0.9%）を上回り、前期（1.0%）から加速した。

(図表1)



(図表2)



## 2. 結果の詳細: 内需の底堅さに加えて輸出も加速

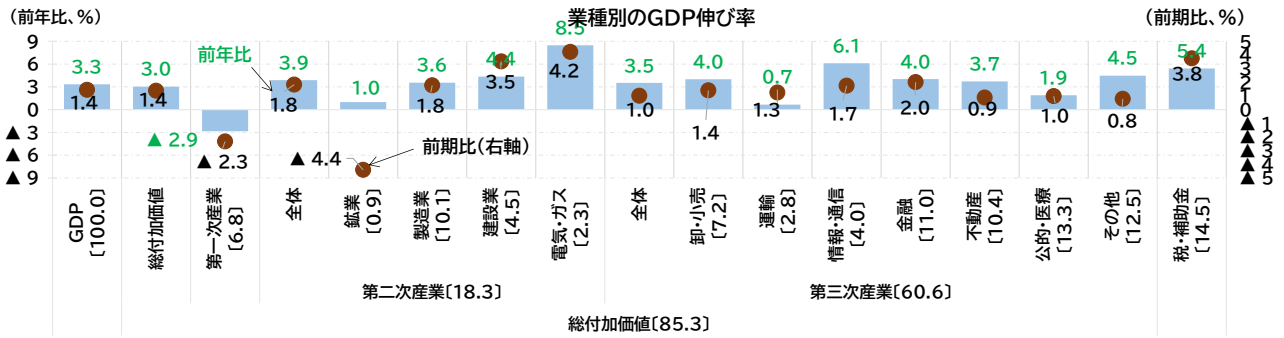
24年4-6月期の実質GDP伸び率は前期比1.4%（季節調整値、年率換算5.9%）となり、前期（前期比1.0%、年率換算4.2%）から加速した。コロナ禍前（19年10-12月期）比では9.9%だった（図表4・5）。伸びのトレンドが見やすい前年比でも3.3%と、前期（2.5%）から加速している。

成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費が1.3%（前期：2.5%）、政府消費が1.3%（前期：0.1%）、投資が2.1%（前期：3.8%）、輸出が1.4%（前期：0.4%）、輸入が7.6%（前期：4.5%）で、前期から輸出が加速したほか、内需（消費や投資）も底堅さを維持した。

<sup>1</sup> bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

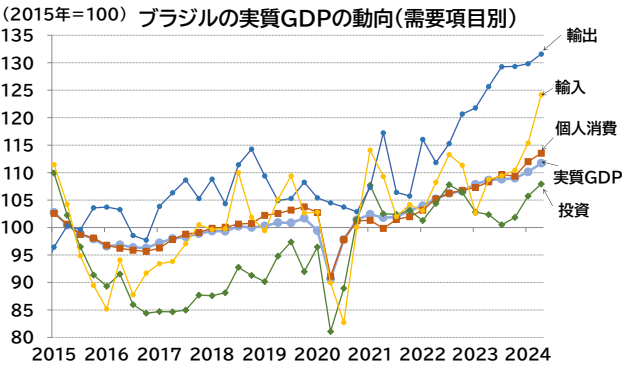
コロナ禍前との対比では、個人消費が9.4%、政府消費が7.2%、投資が17.3%、輸出が21.6%、輸入が21.0%だった（図表4）。

（図表3）



（注）カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値（データラベル）は黒が前期比、緑が前年比の数値（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

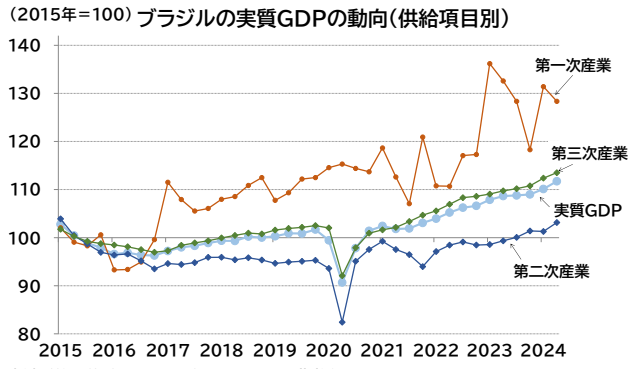
（図表4）



（注）季節調整系列の2015年を100として指数化（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

（四半期）

（図表5）



（注）季節調整系列の2015年を100として指数化（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

（四半期）

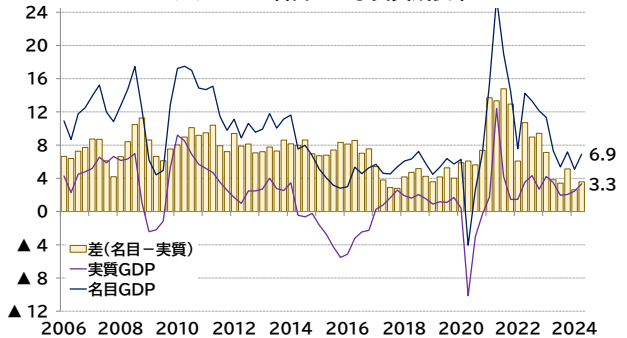
産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると（図表3・5）、第一次産業は前期比▲2.3%（前期：11.1%）、第二次産業は同1.8%（前期：▲0.1%）、第三次産業は同1.0%（前期：1.4%）だった。第一次産業は天候不順の影響で大豆やトウモロコシの生産減が影響し前期比マイナスに転じたものの、水準は依然として高い。

より細かい業種では、第二次産業のうち電気・ガスが前期比4.2%と前期（▲2.6%）に落ち込んだ反動でプラス幅が拡大したほか、建設業（3.5%）も高成長となった。第三次産業は細かい業種も安定して成長しており、4-6月期は金融（2.0%）、情報・通信（1.7%）といった分野の伸び率が高かった。一方、第二次産業のうち、鉱業（▲4.4%）はマイナスが目立った（図表3）。

4-6月期の名目成長率は前年同期比6.9%（前期：5.1%）に再上昇した。その結果、名目と実質成長率の差（デフレータに相当）は3.6%（前期：2.6%）に上昇している。なお、消費者物価指数（IPCA）は、7月で前年比4.35%と中銀目標（3±1.5%）は達成しているものの、GDPデフレータよりやや高く、目標上限に近い水準で推移している。

輸出デフレータと輸入デフレータはいずれも前年比で上昇し、交易条件に関しては交易利得が前期に比べてやや縮小した。

（図表6）ブラジルの名目および実質成長率



（注）未季節調整値、前年同期比（資料）IBGEのデータをDatastreamより取得

（四半期）

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。